

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600123		
法人名	株式会社 エクセレントケアシステム		
事業所名	えくせれんと岡崎		
所在地	京都市左京区岡崎南御所町38-1		
自己評価作成日	平成28年10月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の絶えない居心地のよい生活環境を全職員が目指しております。
 ご入居者様の慣れ親しんだ生活環境をホームで継続して頂けるように努力しております。
 誰に対してもおもてなしと感謝の心をもって接します。
 ご入居者様の満足はもとより、人が人を支える事業故、職員の向上心と満足度を高める事を目標としております。
 心身の介護技術を基本に忠実に習得・体現するため定期的(第三木曜日)な全体研修と、逐次現場研修を行い日々研鑽に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2690600123-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成28年11月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前面道路は、小学生の通学路であり、朝夕子供達の往来の姿が見られます。今年度より管理者が新しくなり、これまでの入居者の暮らしを継続支援しつつも、昨年の改善点である、議事録の書き方を大きく見直したり、地域密着の役割への思いを強く、近隣小学校との交流も行っています。又、地域のイベントに積極的に参加するなど、現状よりさらなる高みへという思いで、次への課題に取り組んでいる姿勢がみられます。身体拘束委員会を設置し、職員の意識調査を行ったり、インシデント・アクシデントレポートを活用し事故防止に取り組むなど、職員教育に力を入れています。食事に関しては、調理委員会を設置し、法人の他事業所と意見交換し献立をたてるなど、より良い食の提供ができるよう工夫しています。「陽春のご家族会」の出張寿司では、入居者の笑顔に、喜んでいただけた達成感を職員のやりが

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所3年を経て、職員の入れ替わりもあった。研修や現場で共有・実践につながるよう意識改革に努めている。	事業所理念を来所者にもわかりやすいように各フロアに掲示し、毎日のミーティングでも唱和しています。日々のサービス提供場面を48時間の申し送りや即日共有ファイルにて職員が確認し、理念をケアの向上に反映させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。日常生活でも外出の機会を多く持つようしている。	左京区SOSネットワーク部会のイベントに参加し、職員が認知症のモデルとなり、地域での関わり方を紹介し、認知症を理解してもらうよう積極的に行動しています。近隣の小学校からの、「ここは何処だろう」の疑問に対して、施設内でインタビューを受けるなど、地域の方を受け入れるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通りすがりの方にも、地域の一員として協力を惜しまない。地域の認知症啓蒙活動には、協力・参加させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、意見交換や、役に立つ情報の共有をしている。些細な意見も逃さず現場に活かしている。	地域包括、社会福祉協議会長から、報告事項に対して意見をいただいています。家族の参加も多く、質疑応答の会話を記録し、議事録に残しています。外部評価の課題について報告し、議事録の書き方を見直し実行に移しています。	地域連携が図れてきていますので、更に消防署や学校関係者への参加も呼びかけ、一層事業所の認知度をあげ、地域の協力が得られるよう行動されることを提案します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談や事故報告を迅速に行っている。	結核の発症報告をきっかけに、保健所の感染症セミナーへの案内をもらったり、議事録を手渡しする際に、担当者に相談できる関係が築けてきています。地域ケア会議に積極的に参加しています。	自然災害時の避難所や市職員の研修場所などに事業所を利用してもらうなど、今後一層関係を深めていかれることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを最大目標ととらえ研修を頻回に開催している。又現場での事例検討を行い、全職員が同じ視点で取り組むようにしている。	身体拘束とリスクマネジメントの研修を行う他、随時事例を交じえ、フロアミーティング等で話し合い職員の意識の共有につとめています。スピーチロックはその場で注意し合える関係を作り、どのような言葉かけが適切か管理者やリーダーから指導しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の必須テーマであり、敏感な観察眼を持つようになっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者様を中心にとらえ、権利の害されることのないように、研修と実践の場で理解と活用が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を基に、対面での口頭説明を原則として行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内容の大小に関わらず、運営に反映するようにしている。発信先を書面に明記し、また、日常会話でも聞き漏らさない、発信しやすい関係性の構築に努めている。	運営推進会議の前後に相談に来られる家族が多く、家族のその時の思いに対応しています。入居者の現在の様子を伝え、職員が家族と入居者の関係をいつまでも保てるよう支援しています。家族同士が意見を言い合える場もあり、ストレスの発散に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を発しやすい、職場環境と人間関係の構築を目指している。会議開催、意見箱の設置はもとより管理者は、職員の眩きに非常に敏感である。	玄関先のソファのレイアウトを職員が試行錯誤しながら設置したり、日頃から職員の意見が反映される関係ができています。フロアごとの課題についてグループワークを行いケアに活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談、研修レポート、業務評価自己申告を公式に実施、日常の業務中にも整備すべき点を掘り起こし改善に努めている。職員が向上心を持つことが重要点であると認識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、職位別研修、スキルアップ研修など、実施。また、OJTのために人員配置を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員のスキルに応じた社外研修受講機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャー、職員、管理者は、事前の情報収集の段階から共有を開始し、ご本人・ご家族との信頼関係を築き、安心安全確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャー、職員、管理者は、事前の情報収集の段階から共有を開始し、ご本人・ご家族との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容を、決め付け、押し付けることなく検討・提案している。軌道修正は、躊躇なくしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、信頼し合い、共に何かをする関係であるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と、より多く会話し、行事や運営推進会議にも招き、接する機会も多くとるよう努めている。それによりご本人により活力が生じると考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問、来訪、共に積極的に支援している。また、様々な協力も惜しまない。	家族からの相談により、同級生との再会の場として事業所の部屋を提供し、仕出し寿司を注文し、ゆっくり過ごしていただいたり、先生をされていた方の教え子の訪問なども予定を把握し、今までの関係が途切れないように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で作業をしたりグループで出かけたりしている、それらを通して日常の中に共に気にし合う関係がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てのものごととはご本人本位に検討している。本人に聞く(観察・寄り添い・聞き取りなどあらゆる手段を講じて)ことを第一義としている。	生活記録に日頃の様子を詳細に記録し、フロアのケースカンファレンスで職員が振り返りを行い、本人の気持ちにより添った介護の統一を図っています。外出希望の方の容態によって、ドライブから散歩に変更したりと工夫し対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	収集した情報を基に、生活の中でこれまでの暮らしを知り、それを生かした生活をして頂ける様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランと職員による寄り添い、観察の両輪によりつぶさな変化も見逃さず、即時共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議をはじめ、情報交換の場を積極的に設けている。また、場を設けずとも情報交換を出来る関係性の構築に努め、介護計画に反映している。	入居者、家族とは日頃から関わりを積極的に持ち意見をプランに反映しています。毎月モニタリングを行い、プランの達成状況を確認しています。サービス担当者会議やケースカンファレンスでケアプランの見直しを検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、日報において様々な情報を共有し、検討し、改善や計画の見直しに活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応を原則としニーズに応じる努力をしている。同窓会の部屋提供、寿司職員招聘、フィルムコンサート鑑賞参加など。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会にとけこむことによって地域資源活用に期待が持てるという視点をもって、支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の定期往診に加えて相談、臨時往診、緊急事態はかかりつけ医往診センターによる24時間対応が可能である。相談事にも丁寧に対応いただいている。	入居者と家族の希望で選択して頂いています。かかりつけ医の往診も対応し、受診時は職員も付き添い、入居者の情報を医師に伝えるなど、通院の支援に努めています。協力歯科医による月1回の検診と週1回の口腔ケアを実施しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないが、小規模多機能型居宅介護(エクセレント岡崎)配置の看護師に相談が可能。上記往診センターでは、看護師が相談に応じてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、医師、看護師とも情報交換・相談に努めている。関係作りにおいても事例発生の度に信頼関係を高めるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに関する指針」を契約時に説明し、同意いただいている。かかりつけ医も方針共有について大変協力的である。	終末期に関する指針を書面で説明し、看取りについての具体的な希望を確認できる意向確認書を頂いています。法人研修の他に、協力医が「家族のメンタルケアの問題」の研修を行うなど、職員の教育にも努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備している。事例があった際には、それを教材にし全職員が対応できるように研修を行っている。消防訓練においても消火訓練と共に訓練を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年毎に消防署の指導により消防訓練を実施している。運営推進会議においても協力を乞うていく。	夜間対応を含め、消防署指導の訓練を年2回実施しています。その内容をベースにして事業所独自でも研修をし、参加できない職員とも共有しています。防災の日には、岡崎中学の訓練に参加しています。事業所内の倉庫に水とかんぱんを3日分備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	繰り返し研修でのテーマとし、ことあるごと事例検討している。悪い言葉かけは見えない武器ととらえ、特に職員教育の必要な項目であると認識している。	本人のやりたい気持ちに対して、管理や指示する言葉は絶対言わないよう、研修や勉強会で度々確認し合い、職員同士「これはおかしくないか？」と疑問を持つようにしています。排泄を失敗したとしても、自尊心を保てるよう配慮した支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持や願いや意見を自由に発言できるよう人間関係の構築に努めている。感情をも表出できるように、ゆったり会話を楽しめる時間を持つように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合は排して、その方の好ましい生活ペースを守れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣や装いは、TPOに応じて自分でされたり、ご本人に伺い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊事をはじめ、食事に関する事は、生活の中での大きな関心事ととらえ、ご利用者様と職員が和気藹々とするように努めている。	野菜の下ごしらえ・味付け・配膳・洗い物などできること、やりたいことを職員と一緒にしています。松花堂弁当箱を用意しており、日々のメニューでも弁当箱に詰めることで特別メニューに変わり、入居者が喜んで食事をして頂けるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を継続的にとり個別対応支援している。体調変化による食事形態の変更も柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員に毎食後の口腔ケア支援をしている。口腔の状態については情報共有し、改善すべきは即座に対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はすべての業務に優先することを肝に念じ、自立支援に努めている。普通にトイレで用を足すことを目標に支援を行っている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合ったトイレ誘導をすることで、入居後リハビリパンツから布パンツになった方、または布パンツで軽量パットに変えたため皮膚のアレルギーが治った方など、ステップアップを目指し、自立への支援を続けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事摂取、運動、日常の活動を通じて自然な排泄が習慣化することを目標に、個別対応にて支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のご希望をお伺いし、入浴支援を行っている。決して無理強いせず、ご本人の気持ち大切にしている。シャワー浴や足浴・手浴も適宜実施している。	週2回の入浴を基本とし、入浴という行為だけにこだわらず、入居者がゆったりと楽しめる場になることが一番と考え支援を行っています。その時の入浴を好まない場合は、日にちや時間の変更、清拭や足浴に切り替えるなど臨機応変に対応しています。職員とのお喋りの時間にもなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調を勘案して、ご本人本位の支援をしている。ソファでのごろ寝も日常の光景である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は、ミスのないように全職員でチェック表を作り取り組んでいる。更新された薬剤情報は都度、職員が自主的に確認し、支援方法、症状変化について共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでの生活そのものが、ご本人の本来の生活であるように支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は気分転換に大きな効果をもたらすことと認識して、頻回に実行できるように努めている。行き先はご本人次第としている。ご家族も出かけて下さる。	一人で外出が困難な方であっても、入居者の出かけた気持を察して、近隣の公園への散歩やドライブなど日頃から支援をしています。外出できない時も、玄関前のソファーに座り、外を眺めながら、入居者同士お喋りすることで、気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向も踏まえて一人ひとりの希望にかなう支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活館や季節感に加えて清潔感を感じて頂ける様に努めている。心地よく過ごせる空間を維持できるように努めている。	開放的な対面キッチンのため、顔がよく見えて、入居者と職員が話やすく、安心感のある空間になっています。車イスも移動しやすい広さを確保しています。湿度も保たれ、加湿器の用意もしてあります。所々にソファーが置かれ、入居者が寛げるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、歓談や休憩に一役かっている。テーブル配置も居住者の顔ぶれを考慮し、気分転換の為に、混乱をきたさないことに留意して変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の気持ちを優先的に考慮して居室の配置を行っている。そのうえで、安全、清潔管理に努めている。	ベッドと防災カーテン以外は、入居者の持ち込みで、家族用のソファやお気に入りの椅子を置くなど、個々のこだわりが感じられます。供養の品を並べ安心して過ごせるよう設えている入居者もいます。清掃チェック表にて居室の清潔を保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置や表示を明確にすることによりご本人の生活動線の安全性を図っています。		